



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	南2西3南西地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事	階数	地上28階地下2階
建設地	札幌市中央区南2条西3丁目20番	構造	RC造
建物用途	物販店,集会所,集合住宅,等	平均居住人員	466 人
竣工年	2023年4月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	3,699 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	3,281 m ²	評価の実施日	2023年2月1日
延床面積	42,750 m ²	作成者	
		確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆ A

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.78**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合 本施設は札幌商業の中心に位置している。そのため低層階は賑わいの創出を図るため商業を、高層階は都心居住のニーズに対応するため住宅を配し、多様な都市機能の集積を図る。また、多様な交流や活動に資する地上広場及び地下広場を整備し、新たな回遊、交流の創出を目指す。		A 省エネルギー LED照明の採用、断熱2重サッシの採用、庇とカーテンを組み合わせることでグレアの抑制をはかるなどの配慮を行っている。
B 省資源等 躯体と仕上げ材が分別しやすい構造とする、耐用年数が一般空調換気と比較して短くなると考えられる空調換気ダクト系統は長寿命化を図る、ディスプレイの採用などを行っている。	C 緑化 屋上部分を緑豊かな広場として、共同住宅の住民、施設利用者、都心部への来訪者などに一般開放し、賑わいや憩いの場を創出する。 また、積極的な緑化により「断熱効果による省エネ効果」「ヒートアイランドの緩和」などの環境負荷低減に寄与する。	D 雪処理 ロードヒーティングを敷設し、敷地外へ雪を出さない計画としている。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル		許容騒音レベルを満たす設計を行う		5.0	0.45	5.0	0.50	3.9	
1.2 遮音				3.0	0.45	3.0	0.50		
1	開口部遮音性能			3.0	0.94	3.0	0.30		
2	界壁遮音性能			3.0	0.06	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-			-	3.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-			-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		3.0	0.11		-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御				3.0	0.50	1.7	0.50		2.1
1	室温	-		3.0	0.52	1.0	0.63		
2	外皮性能	省エネ		3.0	0.29	3.0	0.38		
3	ゾーン別制御性	-		3.0	0.19		-		
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境									
3.1 屋光利用				2.0	0.38	4.0	0.35	2.7	
1	屋光率	ラーメン構造による自由度の高いプランにより広い開口を確保。		1.0	0.46	5.0	0.50		
2	方位別開口	-			-	3.0	0.30		
3	屋光利用設備	省エネ		3.0	0.54	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.16	4.0	0.35		
1	屋光制御	省エネ 住宅共用部にはブラインド、住宅居室には庇、カーテンを設置。		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		3.0	0.13	-	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.33	1.0	0.29		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策				5.0	0.55	5.0	0.63		4.1
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料を全面的に使用。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.35	3.3	0.38		
1	換気量	-		3.0	0.45	3.0	0.33		
2	自然換気性能	住宅居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保。		3.0	0.10	4.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮	-		3.0	0.45	3.0	0.33		

4.3 運用管理				3.0	0.11	-	-	
1	CO ₂ の監視		-	3.0	0.50	-	-	
2	喫煙の制御		-	3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.8	0.40	3.4	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性		-	1.0	0.03	-	-	
2	高度情報通信設備対応		-	3.0	0.03	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画		-	3.0	0.95	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.7	0.30	4.0	0.40	
1	広さ感・景観		-	3.0	0.12	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		屋上広場や公開空地を確保。	5.0	0.08	-	-	
3	内装計画		光源色温度の計画、間接照明の採用、パースによる内装計画の検討を行っている。	5.0	0.80	5.0	0.50	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		汚れ、メンテナンスに配慮し、タイルや塩ビシート等の素材を選定。	5.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		制振ダンパーを導入し、内部設備を保護。	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で等級3相当。	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		節水型器具の採用、水槽の分離設置を行っている。	4.2	0.20	-	-	
3	電気設備		-	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		-	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		-	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.8	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				4.3	0.16	4.6	0.50	
1	階高のゆとり		低層部は5m、高層部は3.25mを確保。	5.0	0.35	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		ラーメン構造のため耐力壁を必要としない。	4.0	0.65	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.16	3.0	0.50	

3.3 設備の更新性				2.8	0.68	-	-	
1	空調配管の更新性		-	2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.2
1	生物環境の保全と創出	緑化	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	景観プレアドバイスを実施し、周辺に配慮したボリューム、色彩を決定。	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	待ち合わせ空間としても利用できるピロティの設置、地域の賑わいに貢献する公開空地の設置を行っている。	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源緑化	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.67 品確法= 等級3	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	-	2.4	0.10	-	-	2.4
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.78	4.7	0.50	-	-	4.7
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.54	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.46	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	1.00	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.5
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		節水コマに加え、節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減	省資源	-	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	エコマーク商品を3品目以上用いている。	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	-	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体+軽鉄+仕上材とし躯体と仕上材が容易に分別可能とし、GL工法、OAフロアを採用。	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を使用。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	-	1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつGWP=1の断熱材を使用。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒	省資源	-	2.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	地下ピットに雨水槽を設置。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		駐車場、駐輪場ともに条例を満たす台数を確保。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	ディスプレイの設置、ヒーティングの敷設を行っている。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音		-	3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		-	2.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインチェックリスト及び広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要		BEE	1.6	BEEランク	A
建物名称	南2西3南西地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事				
建物用途	物販店,集会所,集合住宅,等				
延床面積	42,749.9 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア		合計	
A 省エネルギー (最高点 25.2 最低点 7.6)		19.5点 /25.2点	
Q1 温熱環境	スコア 1.1 /1.7	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.2 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 2.4 /3.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.0 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 9.4 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.6 最低点 7.6)		15.6点 /23.6点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 6.5 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 /1.8
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.7 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.3 /4.4
C 緑化 (最高点 15.4 最低点 3.1)		9.0点 /15.4点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.8 /6.1		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数